

バイオマスタスクフォースセミナーに参加して

筑波大学社会・国際学群 国際総合学類 安部 優美香

望月先生の講義では、バイオマス利用について、これまであまり考えたことがなかったので良いきっかけとなった。今、日本は食料自給率の改善が求められているが、そのためにもエネルギーがキーワードになるという新しい視点を持つことができた。

赤川先生の講義では、地方創生として観光に目をつけ、次世代エネルギーによるまちづくりを目指した点が面白いと思い、またこれはつくば市とも共通していることだと思う。実際に、いちき串木野市で事業が始まってから、修学旅行などの観光客が増えたり、企業を誘致して雇用が増えたりしているのはすごいことだと思った。全国のほとんどの都市で人口減少・少子高齢化という問題を抱える中、地域のポテンシャルを見つめ、熱意と行動力、責任をもつリーダーの存在の重要性を知った。また、得られた利益は、環境教育などによって地域に還元するというスタンスは素晴らしいと思った。良いことを共有して広めるという考えは、何においても大切なことだと思う。

次に、太陽光パネルの見学をした。太陽光パネルの下で作物を育てる計画があることは知っていたが、実際設置現場に行き、想像していたより広範囲で行われることが分かった。また、栽培される作物も、あしたばやどくだみ、朝鮮人参などで、市場では高値で取引されるため期待できるといえるだろう。見学では、テントを使ってパネルの下での栽培を実験している様子も見たが、それは規模が小さいから育てられるのであって、本当に大規模なパネルの下で作物が育つか、と疑問に思った。そもそも、つくば市にも工業団地があるのなら、いちき串木野市のように、工場の屋根にパネルを設置し、設置予定地となっている場所は、普通に農業として利用すればいいのではないか。つくば市が環境都市として成功するためには、リーダーが熱意と責任を持ち、周りを取り込めるようにしっかりと説明をすることが必要であろう。